様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｋ１５８４５

研究課題名（和文）妊娠期における女性のキャリア形成過程を阻止する要因構造に関する研究

研究課題名（英文）Clarifying the blocking factors of career development on working pregnant women

研究代表者
吉沢　豊予子（Yoshizawa, Toyoko）

東北大学・医学系研究科・教授

研究者番号：８０２８１２５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：日本の女性の生涯におけるキャリア形成と子産み、子育てを同時に行う「両立」の必要性が迫られている。そこで、妊娠中にキャリア形成を阻止するような要因はあるかを調査することを目的とした。方法：現在妊娠している就労女性に1回目200名、2回目300名に対しWEB調査を実施した。その結果、妊娠合併症を併発した場合、強い職務ストレスを持っている場合、上司への妊娠開示が早くなり、マタニティハラスメントを受けやすく、胎児への罪悪感や職場への罪悪感が高くなることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The career women are under pressure to balance career development and giving birth & child-rearing in Japan. The purpose of study was that we find the blocking factors of their career development on working pregnant women. Methods: first year, two hundred working pregnant women participated in online survey, second year, 300 working pregnant women so on. As the result, working pregnant women with pregnancy complications (threatened abortion, threatened premature delivery, and gestational diabetes mellitus) or working pregnant women with strongly job strain were disclosed their pregnancy significantly earlier to boss, had experienced more maternity harassment, and felt significantly more guilt feeling related to workplace and their baby in the uterus.

研究分野：医歯薬学

キーワード：就労妊婦　妊娠開示　職務ストレス　罪悪感尺度　マタニティハラスメント

１．研究開始当初の背景

日本女性の生涯におけるキャリア形成と子産み・子育ては、「**どちらかを選択する**」時代からキャリア形成を最初にそして子産み・子育てへという「**順序性**」を経て、キャリア形成と子産み・子育てを同時に行う「**両立**」の時代の必要性が叫ばれている。　国の施策は、地方創生と女性の登用をキーワードにして舵を取ろうとしている。女性に関して言えば、女性のキャリア形成については男女共同参画社会基本法制定以降、高学歴化と多様な職種への登用という形で切り開かれてきた。一方でそれに伴う晩産化・少子化は深刻化しつつ、この解決は国の重要な課題となっている。これまでにも男女雇用機会均等法における母性健康管理の措置、労働基準法における母性保護規定と公的には法整備は行われている。しかし、女性がキャリアを形成しつつ、子どもを産み育てる環境が整っているとは言えない。

現在の就労妊婦に対しマタニティハラスメント（マタハラ）の調査（連合非正規労働センター）が 2013 年、2014 年と２年連続で行われている。マタハラの被害者は 27.3%（2014）となっており 2013 年より漸増している。これへの対処では、「我慢した」あるいは非正規雇用では諦めて仕事をやめた人数が正規雇用の 2 倍にもなっている。職場で妊娠していることがハラスメントにつながる現状にあることが伺える。また、妊婦やワーキングマザーの中に妊娠しながら仕事をすること、働きながら子育てをすることに「罪悪感」や「申し訳なさ」を抱いている女性がおり、このことがキャリア形成の中断や、妊娠期に育む胎児への愛着、家族形成に何らかの影響があることが予測される。

２．研究の目的

男女が生殖可能な適齢時期にあたりまえのように家族を作り、そして男女がそれぞれのキャリア形成をしながら、社会に貢献できる仕組み作りの基礎研究である。現在妊娠中の法的整備が整ってきているにも関わらず、妊婦が、働きにくさや、更には「罪悪感」や「申し訳なさ」を感じる要因がどこにあるのか、それが妊婦としての快適ライフや家族形成、妊娠期アウトカムにどのように影響するのかを明らかにする。また、「妊娠期に感じる罪悪感と何か」、何故このような罪悪感をもつことになるのか、それを探索し、その関連要因を明らかにすることである。

(1)　１年目目的：現在妊娠中の法的整備が整ってきているにも関わらず、妊婦が、働きにくさや、更には「罪悪感」や「申し訳なさ」を感じる要因がどこにあるのか、それが妊婦としての快適ライフや家族形成、妊娠期アウトカムにどのように影響するのかを明らかにする。

（2）2 年目目的：1 年目の基礎研究を基に、その中で明らかになった妊娠期のキャリア形成過程を阻止する要因をさらに深める。

３．研究の方法

本研究は 2 年にわたって行った。

(1)　**１年目**

①研究デザイン：WEB 調査による観察研究デザイン

②研究参加者：組み入れ基準（20 歳以上、調査時妊娠している（妊娠週数問わない）初めての妊娠、正規・非正規問わず 6 か月以上 20 時間以上の就労時間）200 名

③測定項目：基本的属性、ジョブインボルブメント尺度、3 次元組織コミットメント尺度、マタニティハラスメントの経験、FSOP 尺度日本語版、平等主義的役割スケール短縮版、身体的妊娠アウトカム（妊娠合併症）心理的妊娠アウトカム（妊娠期快適尺度、）社会的妊娠アウトカム（退職の有無）

④分析:統計解析ソフト SPSSver.22 を使用。有意水準 p<.05,P<.10 を関連傾向した。

(2)　**２年目**

①研究デザイン：WEB 調査による観察研究デザイン

②研究参加者：組み入れ基準（20 歳以上、調査時妊娠している（妊娠週数問わない）初めての妊娠、正規・非正規問わず 6 か月以上 20 時間以上の就労時間）300 名

③測定項目：基本的属性、日本語版 Job Conttent Questionnaire(JCQ)、日本語版努力報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票、身体的妊娠アウトカム（マイナートラブル、妊娠合併症 ）、心理的アウトカム（妊娠期快適尺度、就労妊婦罪悪感尺度、日本語版 K-6）社会的妊娠アウトカム（妊娠後の就労状況、妊娠開示）

④分析：統計解析ソフト JAMP ver11、SPSSver.24 を使用。有意水準 p<.05, P<.10 を関連傾向した。

(3)　倫理的配慮：東北大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の承認を得た。(1 年目受付番号 2014-1-860、2 年目受付番号 2016-1-610。調査会社は一般社団法人日本マーケティングリサーチ協会加盟社であり、プロバシーマーク認定企業となっている調査会社で実施した。

４．研究成果

(1)　就労妊婦罪悪感尺度の開発

①概念分析：就労妊婦の罪悪感を探るために罪悪感に関わる概念分析を実施した。

方法：分析は，Walkerらによる概念分析の手順に沿って行った。罪悪感の一般的な捉え方，心理学，精神医学・精神分析学，看護学における用法の分析の結果，9つの罪悪感の定義属性を抽出した。分析結果を就労妊婦の経験・実態・否定的感情，働く母親の罪悪感という観点から文献検討した内容と統合した。

結果：就労妊婦の罪悪感は，[自己規範に違反した際の否定的感情]，[行為の自制をする感情]，[利益過剰状態に対する感情]の3概念で構成されていた。

結論：就労妊婦の罪悪感は，就労妊婦に対する理解を深める上で重要な概念であり，妊娠期の心理的健康に影響を及ぼす可能性も考えられる。今後の更なる研究の蓄積，測定用具の開発が求められる。

②就労妊婦の罪悪感尺度の開発

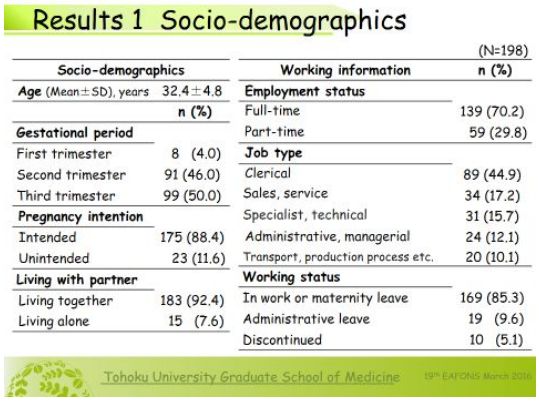
概念分析で明らかにした概念と先行研究を統合し，予備調査を含めて内的妥当性を検討した上で就労妊婦の罪悪感尺度試案14項目を作成した。WEB調査により，就労妊婦を対象に調査を行い，信頼性は，Cronbach’sα係数{α}，Item-Total相関{r}による内的一貫性の評価，妥当性は，探索的因子分析，Multitrait scaling分析による構成概念妥当性の評価，4つの外部基準を用いた基準関連妥当性の評価により検証した。

就労妊婦 198 名のデータを分析し，尺度は[胎児への罪悪感]，[職場への罪悪感]の 2 カテゴリーを別に分析すべきであると判断した。それぞれに最尤法プロマックス回転にて因子分析を行った結果，[胎児への罪悪感]1 因子 4 項目，[職場への罪悪感]3 因子 9 項目にて収束し，尺度化成功率 100%，基準関連妥当性も証明された。信頼性においては，[胎児への罪悪感]α=.78，[職場への罪悪感]α=.89，Item-Total 相関で全項目においてr=.40 以上であった。就労妊婦の罪悪感尺度の信頼性、妥当性を確保した。これにより、WEB 調査の心理的妊娠アウトカムの調査項目として、調査を行った。

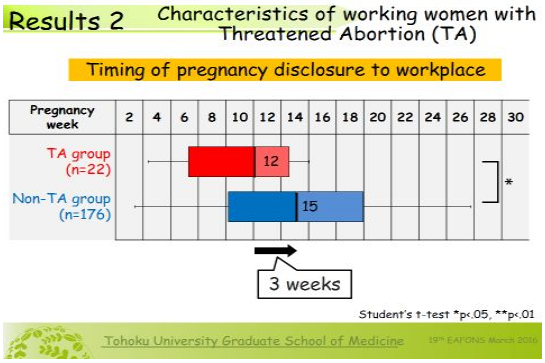
(2) 妊娠合併症を持つ就労妊婦の特性

妊娠中に妊娠合併症を罹患したことがどのように妊娠中のキャリア形成に影響を与えるかの観点で分析をした。

①妊娠開示を職場にどのように行っているのか



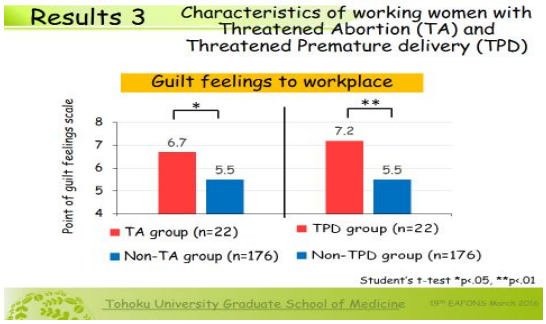
基本属性は上記の通りであり、70%が正規労働者であり、約半数が事務職、現在も働いているか産休中である妊婦が 85%であった。妊娠初期の少なく、妊娠中期、後期がそれぞれ半数程度であった。



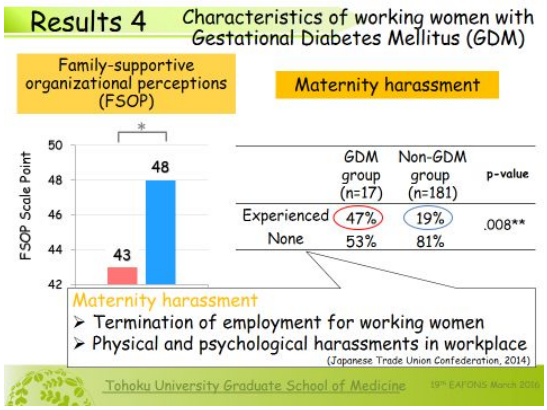
切迫流産を経験している人とそうでない場合では、切迫流産を経験している方が 3 週間有意に早く開示していた。一般には中央値妊娠 15 週で妊娠 4 か月の終りまでに開示していた。妊娠してもいつもと変わらない仕事をすることを心掛け、妊娠がキャリアの妨げにならないように振舞うと言われている。降格や解雇を避けるためである。従って妊娠はできるだけ隠そうとし、職場への妊娠開示は遅くなる。しかし、切迫流産となった場合、開示せざる状況に追い込まれ、一般よりも早くなる。これは、妊婦にとって非常にストレスフルな出来事となる。

②切迫流早産妊婦と就労妊婦の罪悪感尺度との関係

切迫流産、切迫早産の両妊婦において、非切迫溜早産妊婦と比較して、罪悪感尺度の職場に対する罪悪感が高いことが明らかになった。



結果４では、妊娠糖尿病罹患者のマタニティハラスメントの経験が有意に高いことが明なった。



これらの結果から就労妊婦が妊娠合併症に罹患することによって、就業上の不利益を被ることが明らかになった。

(3) 日本語版 Job Content Questionnaire の 4 分類と就労妊婦の特徴

①職務ストレス；仕事の要求度と裁量度の組み合わせるよる 4 つの分類内訳

Passive job:仕事の要求度が低く，裁量度も低い 77 名、Relaxed job:仕事の要求度は低いが裁量度は高い 78 名、High strain:仕事の要求度が高いが、裁量度が低い 47 名、Active job:仕事の要求度は高く、裁量度も高い 97 名であった。

②属性との関係；最終学歴において、有意な関係（p=.004）があった。Passive に学歴の低い割合が多く、Active に学歴の高い割合が

多かった。また職種でも有意な関係(p=.0001）があった。Passive では事務系が多いが Active では専門・技術職の割合が他と比べて高かった。非常にジョブストレスの高い High strain は、事務職は多いが次に高い尾は公務員職の割合であった。また就労時間においても有意な関係（p=.0018）があり、要求度の高い High strain と Active の就労時間が長かった。年収においても有意な関係（p<.001）があった。Passive では年収が低い割合が高く、relaxed job は 200-300 万、300-400 万で同じ割合で多く、High strain は低い年収の割合が高かった。Active は高収入の割合が高かった。職位では Active で管理職の割合が他に比べて高く、勤続年数 Passive が短かった。いずれも有意差が認められた。

③身体的妊娠アウトカムとの関係

妊娠合併症と職務ストレスの 4 分類と比較した。妊娠悪阻、切迫流産、切迫早産、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児以との関係を見た、関連傾向が認められたのが切迫流産であり、High strain で、切迫流産罹患が高い傾向が認められた。そのほかの妊娠合併症では 4 群で関連は認められなかった。

④心理的妊娠アウトカムとの関係

妊娠期の快適尺度で、「周囲との交流による支え」因子で relaxed job が有意に高い得点を示した（p=.047)。Passive では低い得点あった。就労妊婦の罪悪感尺度では、胎児への罪悪感が有意に高いの(p=.0004)が High strain であった。また胎児への罪悪感が低いのが、Passive であった。職場への罪悪感においても有意差が認められた(p<.0001)。得点が一番高いのが High strain で次が Active であり、罪悪感が低いのは Passive であった。裁量権に関係なく要求度の高さが、胎児および職場への罪悪感を高くしていた。また妊娠中の精神状態をみた K-6 においてやはり、High strain が有意に高かった。要求度の低い仕事と思っている passive relaxed job は低い得点であった。

⑤社会的妊娠ストレス

妊娠開示では、上司には妊娠開示をしているが、Relaxed 群では妊娠開示をしていない割合が有意に高かった(p=.023)。マタニティハラスメントの経験の有無では、High strain 群で有意に体験している割合が高かった(p=.04)。有意差が出ていないが、High strain 群は妊娠前と同様な仕事をしている人の割合は低いものの、産前休業までに仕事を続けるとしている人の割合も一番低く、既に退職した妊婦の退職週数の時期も一番浅い妊娠 24 週であった。仕事の要求度も高く、裁量度が低いと認識している場合、仕事環境が悪く、妊娠によって退職に繋がることで、キャリアが中断してしまうと考えられる。

(3)　まとめ

妊娠合併症に罹患することが、また、職場での職務ストレスの認識よって、特に High strain と認識している場合、妊娠中のキャリア形成に疎外因子に遭遇しやすいことが明らかとなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１　件）

和田　彩，中村康香，跡上富美，佐藤眞理，吉沢豊予子：就労妊婦の罪悪感：概念分析，日本看護科学会誌　J. Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol. 36, pp. 213‐219, 2016 DOI: 10.5630/jans.36.213 （査読有）

〔学会発表〕（計　2 件）

①Aya WADA, Yasuka NAKAMURA, Fumi ATOGAMI, Mari SATO, Toyoko YOSHIZAWA, Working pregnant women's guilt feelings :Scale development and measurement, 36th JANS, 東京都千代田区(東京国際フォーラム),

2016.12.10-11.

②Aya WADA, Yasuka NAKAMURA, Fumi ATOGAMI, Toyoko YOSHIZAWA :Characteristics of working women who have pregnancy complications, The 19th EAFONS, 千葉市（幕張メッセ）, 2016.3.14-15, Abstract Book Oral Presentation p.123

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0　件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://www.womens.med.tohoku.ac.jp/

６．研究組織

(1)研究代表者

吉沢　豊予子（YOSHIZAWA, Toyoko）

東北大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：　80281252

(3)連携研究者

跡上　富美（ATOGAMI, Fumi）

東北大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号：20291578

中村　康香（NAKAMURA, Yasuka）

東北大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：10332941

(4)研究協力者

和田　彩（WADA, Aya　）

横浜市立みなと赤十字病院　助産師

高嶋　里会（TAKASHIMA, Rie)大学院生

東北大学大学院医学系研究科博士前期課程 2 年